

海洋状況表示システムの活用推進に関する検討会

参考資料



有識者会議開催の趣旨

- 海洋状況表示システム（海しる）に関し、地方公共団体や民間等における活用を戦略的に推進するため、重点的な活用が想定される分野及びそのニーズの把握、並びに最新の情報提供技術の導入に関して、有識者による検討を行い、今後のシステムの発展に向けた指針を得る。

主な検討課題

政府の運用するシステムとして、

- どのような役割を担うべきか
- どのような情報を掲載するべきか
- どのような機能を搭載するべきか
- どうやって利用を推進するべきか

開催実績

- **第1回 令和元年10月29日（木）**
 - 趣旨説明・海しるの現状
 - ニーズ調査の方法
 - 外国の情報提供システムの調査方法
- **第2回 令和元年12月26日（木）**
 - ニーズ調査結果報告
 - 外国の情報提供システムの調査報告
- **第3回 令和2年2月14日（金）**
 - 報告書の骨子の検討
- **第4回** コロナウイルスの影響で開催せず

構成員

- 内田 正洋 (公社)日本カヌー連盟日本レクリエーションカヌー協会 理事
海上保安庁 海の安全推進アドバイザー
- 佐藤 慎司 高知工科大学 教授
- 庄司 るり 東京海洋大学 副学長・教授
- 角田 智彦 (公財)笹川平和財団海洋政策研究所 主任研究員
- 照井 健志 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構
国立極地研究所 特任研究員
- 藤井 直紀 佐賀大学農学部 特任助教
- 道田 豊 東京大学大気海洋研究所 国際連携研究センター長・教授
(委員長)
- 森田 孝明 長崎大学海洋未来イノベーション機構 機構長特別補佐
長崎県産業労働部 参事監
- 八木 信行 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
- 矢下 忠彦 (一社)海洋調査協会 専務理事

海洋状況表示システムの活用推進に関する検討会・報告書概要



概要

- 海洋状況表示システム「海する」は我が国のMDAの基盤サービスであり、海のデータの包括的な情報提供サービスとして高く評価できる一方、ニーズを踏まえた情報の充実・精緻化、機能強化等の改善を継続すべきである。
- 具体的には、政府サービスとして情報の網羅性を確保するとともに、API公開等により幅広い分野での利用を促す必要がある。また、海洋教育に資するコンテンツの充実や、操作性・表示の改善を図り、フォーラム開催など利用者のすそ野を広げる取組をすべきである。
- 我が国は世界有数の海洋文化を有するにもかかわらず、国民の海に対する理解は高くない。「海する」の強化を通じて日本版MDAを実現し、国民の関心を高めつつ海洋政策を推進していくことが、「新たな海洋立国」の実現に必要である。

現状

- 「海する」は政府運用の包括的な海のデータビューアー及びデータカタログとして高く評価できる
- ニーズ調査の結果、欲しい情報がない、使いやすくして欲しいなど、動作が遅い等の改善の要望あり

課題

- 官民の多様な情報サービスの中での役割が不明瞭
- 情報の掲載範囲のコンセンサスが不明確
- 海洋産業だけでなく海洋環境教育の視点が必要
- 検索機能強化等の利便性の改善が必要
- 元データにアクセスしやすい環境整備が必要
- 日本版MDAの情報サービスとして認知度向上が必要
- 政府機関等の情報の掲載強化が必要

改善の方向性

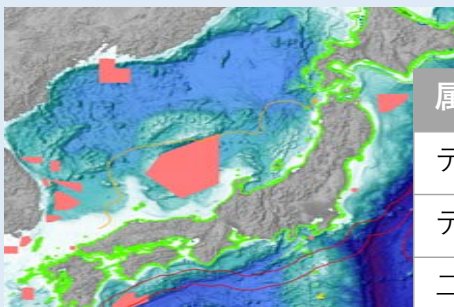
- 他のシステムとも連携しつつ、海するが注力する分野を選択・集中すべき
- 政府によるサービスとして網羅性の確保すべき
- 官民間問わず、計画立案・意思決定を支える基盤ツールになるべき
- 専門家だけでなく誰もが使いやすいツールになるべき
- 利用者のすそ野を広げる努力をすべき

具体的方策

- 掲載情報の充実・情報品質の確保
 - 各種法令、条約等に基づく区域等の情報の掲載
 - リアルタイム情報を含む、情報保有者への積極的な働きかけ
 - 情報提供者へのフィードバックの仕組みの構築
 - 時空間分解能の改善及び過去情報との比較を実現するアーカイブ機能
 - 情報が持つ品質や利用条件に関する情報を属性情報として表示
- データの提供方法の改善
 - APIの公開
 - データダウンロード機能
- 誰もが使えるツールとしての操作性や表示の改善
 - システムの動作をスムーズに
 - 画面構成やメニュー等を改善
 - 横串検索・キーワード検索などの検索機能を強化
 - モニタリング機能の利用を容易に
- 利用のすそ野の拡大
 - ユーザーフォーラム等によるマッチングの取組
 - ハッカソン・アイデアソンといったイベントの開催
 - 教育への活用普及
- 海洋基本計画の進捗評価・見直しプロセスに沿ったフォローアップ

掲載情報の充実・情報品質の確保

- EEZ・大陸棚、漁業権、航路など法令・条約等に基づく区域、インフラ情報、リアルタイム情報の掲載の強化

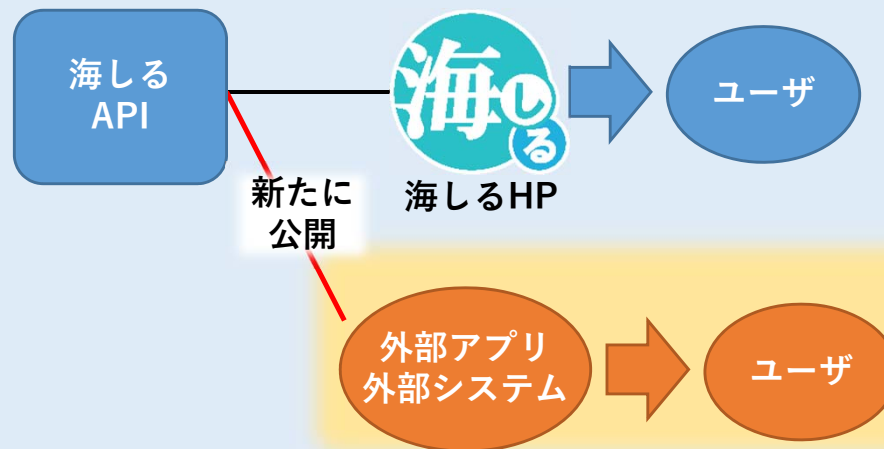


属性
データ作成:2020年
データ作成機関: ■■■■
二次利用可・商用利用可 出典要掲載

- 情報の品質や利用条件に関する情報を属性情報として表示
- 情報提供者へのフィードバックの仕組みの構築

データの提供方法の改善

- 「海しる」のAPIを公開して、海しるの掲載情報を他のシステムやアプリで容易に利用できるようにする
- データのワンストップサービスを実現



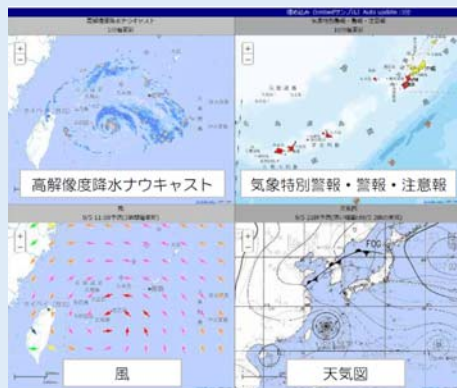
誰もが使えるツールとしての操作性や表示の改善

- 直感的に操作できるように画面構成やメニュー等を改善
- 検索機能の強化
- モニタリング機能の普及

キーワード検索



横串検索



- モニタリング機能
(複数情報表示・自動更新)

利用のすそ野の拡大

- 海しるを利用することでメリットを得る可能性のある潜在的な利用者や、海しるで活用可能な情報を保有している潜在的な情報提供者を効果的にマッチングするため、ユーザーフォーラムや説明会を開催

